

**急傾斜地崩壊対策施設調査
電子データ作成要領
第 1.0 版**

平成 24 年 4 月

広島県土木局砂防課

改訂履歷

はじめに

広島県では、平成22年度より県内の急傾斜地崩壊対策施設の調査を実施し、調査成果を所定の様式に取りまとめている。この調査結果の電子データは、広島県砂防GIS管理システム（以下「システム」という。）に登録され、システムの急傾斜地崩壊対策施設管理機能により、各建設事務所（支所）等で施設の維持管理のために利活用される。これらのデータを効率的に運用・管理・更新していくためには、電子化された調査成果（以下「電子データ」という。）の品質が高水準かつ均一であることが必要である。

急傾斜地崩壊対策施設調査電子データ作成要領（以下「本要領」という。）は、以上のような背景を踏まえ、急傾斜地崩壊対策施設調査の結果からシステム登録用の電子データを作成する際の規則や、留意すべき事項等について定めるものである。

用語の定義

本要領では、本文内で使用している専門的な用語を以下の表の通りに定義する。

No	用語	概要
1	法	「急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律（昭和44年7月1日法律第57号）」のこと。
2	システム	本要領では広島県砂防GIS管理システムのこと。広島県では、砂防関係指定地や砂防設備等の各種砂防関連の情報をこのシステムで管理している。
3	Excel	Microsoft が開発した表計算ソフトのこと。本要領に従って作成する Excel 形式のファイルは、 <u>Excel2003互換形式</u> で作成する。
4	PDF	異なるハードウェア、OS、ソフトウェアで作成されたファイルを閲覧可能とするために Adobe 社が開発したファイル形式のこと。PDF 形式のデータは、Adobe 社の Acrobat 等で作成できる。
5	調査箇所名	急傾斜地崩壊対策施設調査において、調査表ごとに設定した調査箇所名のこと。原則として法に基づく <u>急傾斜地崩壊危険区域名等</u> で設定する。
6	電子データ	急傾斜地崩壊対策施設調査の結果に基づき、本要領に従って作成した各種電子データのこと。Excel や Acrobat 等を使用して作成する。
7	調査表データ	電子データのうち、急傾斜地崩壊対策施設調査の結果を調査表様式にとりまとめたファイルのこと。Excel 形式と PDF 形式で作成する。
8	文字データ	電子データのうち、調査表データを基に入力するシステム登録用のファイルのこと。
9	文字（調査表）データテンプレート	文字データ（又は調査表データ）を作成するため、砂防課（または発注者）より配布される Excel 形式のひな型ファイルのこと。

目 次

はじめに

用語の定義

第1章 一般

1 総則 -----	1-1
2 急傾斜地崩壊対策施設調査 電子データの構成-----	1-1
3 砂防課への提出物 -----	1-2
4 電子データのフォルダ構成-----	1-3
5 提供する配布資料 -----	1-3
6 電子媒体 -----	1-4
7 電子媒体のラベル -----	1-4
8 ウィルス対策 -----	1-5

第2章 急傾斜地崩壊対策施設調査 電子データ

1 電子データの作成手順 -----	2-1
2 急傾斜地崩壊対策施設調査 電子データの作成-----	2-1
3 調査表データ（Excel）の作成-----	2-2
4 調査表データ（PDF）の作成 -----	2-4
5 文字データの作成 -----	2-6
6 関連資料等の PDF データ作成-----	2-12

第3章 参考資料

1 市区町村コード一覧 -----	3-1
2 PDF 文書の作成について -----	3-4
3 電子データの作成例 -----	3-5
4 提出データサンプル -----	3-6
5 急傾斜地崩壊対策施設調査・座標値の測り方-----	3-11
6 急傾斜地崩壊対策施設調査 電子データチェックシート-----	3-12

第1章 一般

第1章 一般

1 総則

本要領は、急傾斜地崩壊対策施設の概成・更新時、又は急傾斜地崩壊対策施設調査業務実施時等における急傾斜地崩壊対策施設の調査に基づく調査成果の作成作業に適用する。調査成果の作成と併せて電子データを本要領に従って作成し、広島県砂防課(以下「砂防課」という。)に提出するものとする。外注等により作成する場合は発注者を通じて提出すること。

2 急傾斜地崩壊対策施設調査 電子データの構成

電子データは、調査表データ、文字データ、関連資料データで構成される。電子データの形式及びファイル名称は表 1-1 のとおりとする。

表 1-1 電子データ一覧表

	データ形式		ファイル名称
	Excel 形式	PDF 形式	
調査表データ			ks_tyousa.xls ks_tyousa.pdf
文字データ		×	ks.xls
関連資料データ	×		ks_kanren .pdf :数字(1~)

(1) 調査表データ

調査表データは、Excel 形式と PDF 形式の 2 種類を作成する。

Excel 形式(以下「調査表データ(Excel)」といふ。) :

調査表データテンプレートで作成した他の電子データの基となる Excel 形式の調査表データ。原則として、砂防課(又は発注者)より配布される調査表データテンプレートを用いて作成すること。

施設の改修・更新等によりシステム内に登録されているデータの修正が必要となった場合は、既存の調査表データ(Excel)を修正し、それを基に他の電子データを作成する。なお、既存の調査表データ(Excel)は砂防課(又は発注者)から提供する。

PDF 形式(以下「調査表データ(PDF)」といふ。) :

Excel 形式で作成した調査表データから作成する閲覧用の調査表データ。PDF 形式の調査表データは、内容が判読可能な精度で作成すること。精度を落とさないための推奨設定を「第3章 参考資料『2 PDF 文書の作成について』」に示す。

(2) 文字データ

施設諸元や住所等の調査表の詳細データをシステムに反映させるために作成する Excel 形式のデータ。本データ作成にあたっての留意事項は以下のとおりである。

必ず、砂防課(又は発注者)より配布される Excel ファイルを用いて作成する。独自に作成した Excel ファイルは不可とする。

配布された文字データファイルへのシートの追加や削除は行わない。

配布された文字データファイルに設定された「シートの保護」は解除せず、編集可能なセルのみにデータを入力する。

上記によりがたい場合は必ず砂防課へ確認すること。

施設の改修等によりシステム内に登録されているデータの修正が必要となった場合は、修正した調査表データ(Excel)を基に文字データも作成する。

(3) 関連資料データ

既存の施設台帳等、急傾斜地崩壊対策施設調査で参照した資料を電子化したデータ。原則 PDF 形式とし、内容が判読可能な精度で作成すること。PDF 形式で作成する場合の推奨設定を「第3章 参考資料『2 PDF 文書の作成について』」に示す。

止むを得ず PDF 形式以外で納品する場合は砂防課に確認すること。

3 砂防課への提出物

作成した電子データは、報告書や完成図書等の成果品とは別にとりまとめ、(発注者を通じて)砂防課へ提出する。

砂防課への提出物は以下のとおりである。

急傾斜地崩壊対策施設調査表紙(A4 縦のファイルに綴じること)

電子データ原則として CD-R

4 電子データのフォルダ構成

電子データは、図 1-1 のフォルダ階層に従って納品する。

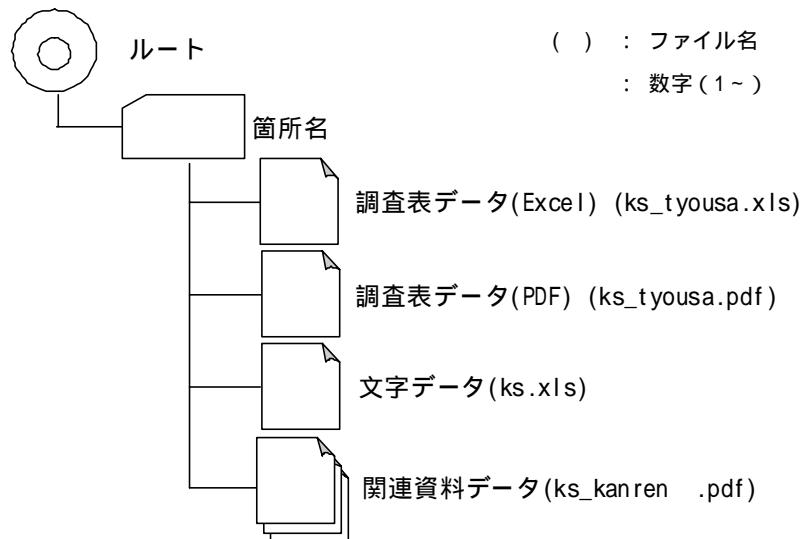


図 1-1 フォルダ階層

電子データのフォルダ構成に関する留意事項は以下のとおりである。

調査箇所の箇所名フォルダを作成し、その箇所での電子データ(文字データ、調査表データ、関連資料データ)を格納する(「第3章 参考資料『3 電子データの作成例』」を参照)。

箇所名は、調査表に記入した急傾斜地崩壊危険区域名等とする。

複数箇所の調査表を納品する場合は、調査表数分の箇所名フォルダを作成する。

1つの箇所名フォルダ内に異なる調査箇所の電子データを格納しない。

各フォルダにおけるファイル構成の詳細は、本要領の「第2章 急傾斜地崩壊対策施設調査 電子データ」に従う。

5 提供する配布資料

電子データ作成に必要な以下のファイルは、砂防課(又は発注者)より配布する。

調査表データテンプレート(Excel ファイル)

文字データテンプレート(Excel ファイル)

6 電子媒体

作成した電子データは電子媒体に書き込んで提出すること。電子媒体に関する留意事項は以下のとおりである。

電子媒体は原則として CD-R とする。

論理フォーマットは ISO9660(レベル 1)を原則とする。

7 電子媒体のラベル

電子媒体のラベルには以下の事項を記載すること。

タイトル	「急傾斜地崩壊対策施設調査 電子納品データ」で統一する。	
箇所名	電子媒体に納められている箇所名を明記する。複数箇所のデータを格納する場合は箇所数も記載すること(例: 地区外 13 区域)。	
何枚目/総枚数	納品する電子媒体の総枚数と該当の電子媒体が何枚目かを明記する。	
市町名	対象となる調査箇所の市町名(広島市は区まで)を明記する。複数市町(区)が対象の場合は原則として列挙明記すること(例: 広島市安佐南区・西区)。	
作成年月日	電子媒体を作成した年月日を明記する。	
受注者名	受注者の会社名を明記する。	



図 1-2 ラベル作成例

電子媒体を入れるプラスチックケースの背表紙ラベルには、以下の事項を記載すること。

	タイトル	「急傾斜地崩壊対策施設調査」で統一する。
	箇所名	電子媒体に記載した箇所名と同一とする。
	作成年月日	電子媒体を作成した年月日を明記する。

急傾斜地崩壊対策施設調査	地区外 13区域 平成24年 月×日
--------------	--------------------

図 1-3 背表紙ラベル作成例

8 ウィルス対策

ウィルスに感染したデータが納品されることがないよう、納品前に必ずウィルスチェックを行う。ウィルス対策における留意事項は以下の通りである。

最終成果品が完成した時点で、ウィルスチェックを行う。

ウィルス対策ソフトは、シェアの高いものを利用する。

ウィルス対策ソフトは、最新のデータに更新したものを利用する。

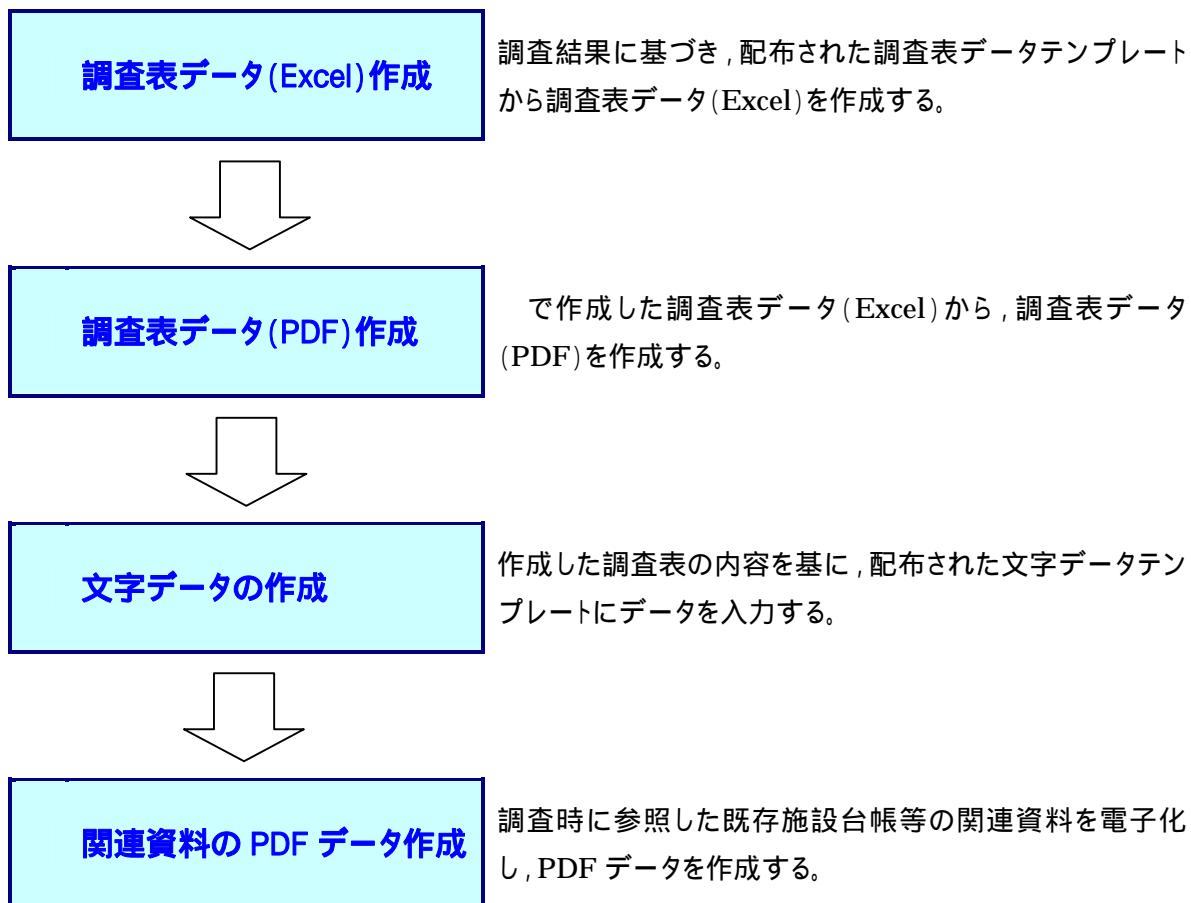
ウィルス対策ソフトにより異なるが、ウィルス検出用のデータの更新方法は、インターネットからデータをダウンロードし、更新する方式が一般的である。

第2章 急傾斜地崩壊対策施設調査 電子データ

第2章 急傾斜地崩壊対策施設調査 電子データ

1 電子データの作成手順

急傾斜地崩壊対策施設調査の電子データ作成は、以下の作業手順に従って実施する。



2 急傾斜地崩壊対策施設調査 電子データの作成

急傾斜地崩壊対策施設調査の結果をふまえ、電子データを作成する。

(1) 電子データの構成

電子データは、以下のファイルで構成される(「第3章 参考資料『3 電子データの作成例』」を参照)。

調査表データ(Excel)	配布されたテンプレートに従い、調査結果を記入した Excel データ
調査表データ(PDF)	から生成した PDF データ
文字データ	調査表の内容を文字データテンプレートに記入した Excel データ
関連資料	調査時に参照した既存施設台帳等の関連資料の電子データ

(2) 作成様式

電子データは砂防課(又は発注者)より提供するテンプレートに基づいて作成する。調査表への入力は、「第3章 参考資料『4 提出データサンプル』」を参考にすること。

3 調査表データ(Excel)の作成

調査表データ(Excel)は原則、配布された様式(調査表データテンプレート)により作成する。

(1) データの作成対象

調査表データ(Excel)の作成対象は以下の通りである。

- ・急傾斜地崩壊対策施設調査表

(2) データの作成方法

様式(調査表データテンプレート)に従い、データを調査表に入力して作成する。

急傾斜地崩壊対策施設調査表															
調査年月日		平成20年11月15日 広島県 西部建設事務所 炎立所													
危険斜地 危険箇所	危険箇所番号	1 - 1 - 1412			***** 位置図 *****										
	危険箇所名	坪井3丁目													
	所在地	呉市音戸町坪井													
	斜面区分	自然													
	地区名	坪井裏民地区													
危険斜地崩壊 危険区域	位置	呉市音戸町坪井3丁目													
	告示年月日	平成6年3月28日													
	告示番号	黒告第 240 号													
	標識・標柱	標識：有 標柱：無													
	鉢 壁	無													
	施設の有無	有													
	管 理 者	広島県													
調査事項 工種	延長(m)	高さ(m)		勾配	変状の 有無	変状の種別	変状の程度	急傾斜地事業		その他事業		不明	施工 状況	マーク ング	
		施設高	斜斜面高					○	施設台帳	HS					
	①斜張式擁壁工	12	2	0	45	無		○	施設台帳	HS			概	緑	
	②コンクリート吹付工	10	8	0	45	有	基本整流	わずか	○	施設台帳	HS			概	緑
	③現場打吹付砂工	40	8	0	45	無			○	施設台帳	HS			概	緑

図2-1 調査表データ(Excel)作成イメージ

(3) ファイル命名規約

調査表データ(Excel)のファイル命名規約は次の通りとする。

表 2- 1 調査表データ(Excel)・ファイル名の命名規約

データ項目	ファイル形式	ファイル名	備考
調査表データ(Excel)	Excel ファイル	ks_tyousa.xls	

(4) 提出データのフォルダ構成

調査表データ(Excel)は、該当する「箇所名」フォルダの下に格納して提出する。

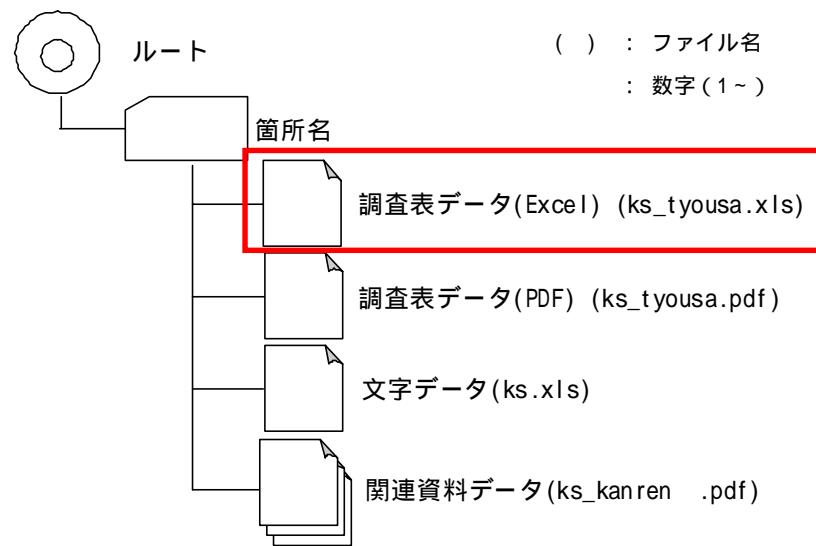


図 2- 2 調査表データ(Excel)の納品フォルダ

4 調査表データ(PDF)の作成

「3 調査表データ(Excel)の作成」で作成した調査表をイメージスキャナ等で電子化し、調査表データ(PDF)を作成する。

(1) データの作成対象

調査表データ(PDF)の作成対象は以下の通りである。

- ・急傾斜地崩壊対策施設調査表

(2) データの作成方法

「3 調査表データ(Excel)の作成」で作成した調査表を、イメージスキャナ等で電子化して PDF に変換するか、Excel ファイルを直接 PDF に変換して作成する。

(3) PDF 作成条件

スキャナの読み込み条件は特に設けないが、原図の内容が判読可能な精度(図 2-3 参照)を目安に PDF ファイルを作成すること。

(精度を落とさないための推奨設定を「第3章 参考資料『2 PDF 文書の作成について』」に示す。)

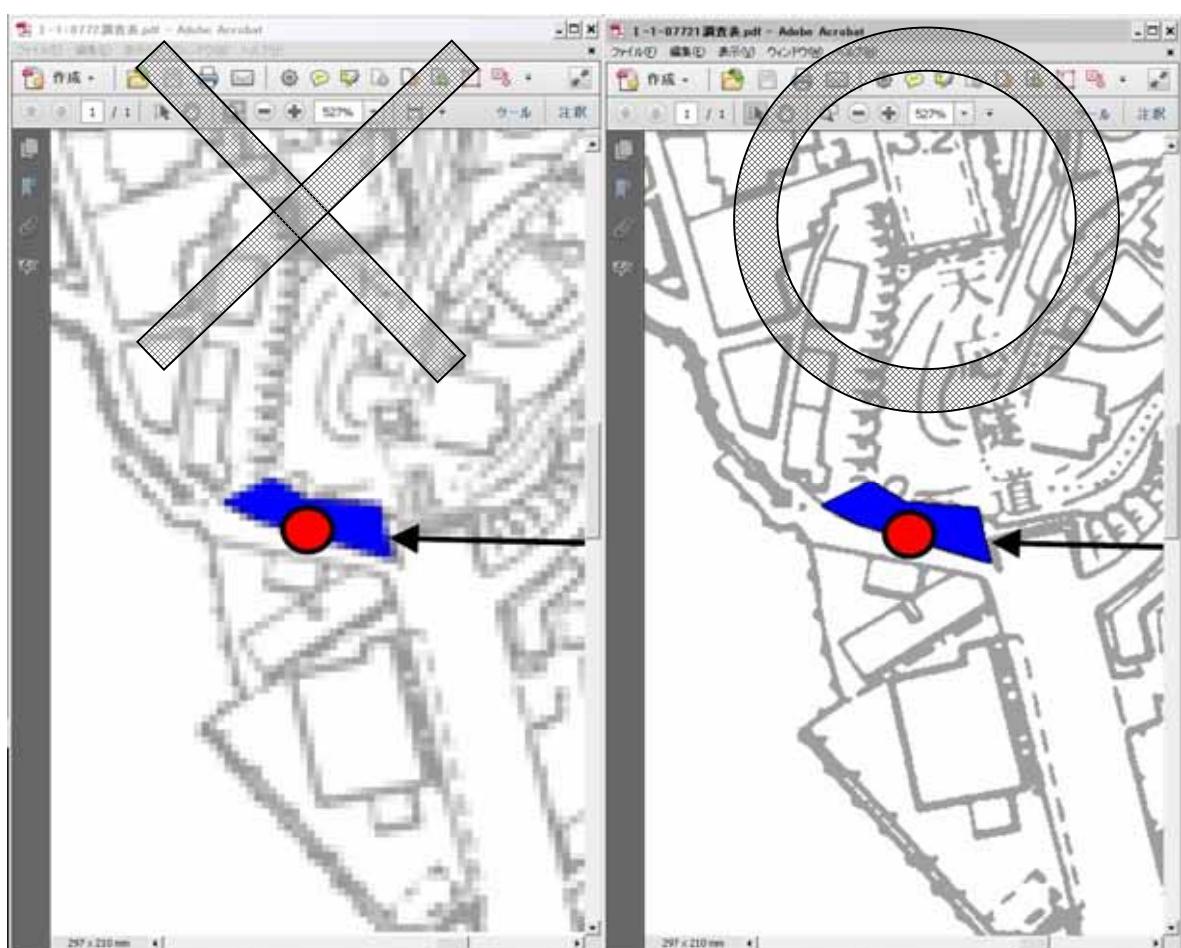


図 2-3 PDF ファイルの精度

(4) ファイル命名規約

調査表データ(PDF)のファイル命名規約は、表 2- 2 のとおりとする。

表 2- 2 調査表データ(PDF)・ファイル名の命名規約

データ項目	ファイル形式	ファイル名	備考
調査表データ(PDF)	PDF ファイル	ks_tyousa.pdf	

(5) PDF ファイルの検査

作成した調査表データ(PDF)を検査し、誤りがないことを確認する。特に、PDF ファイルの品質(用紙の向き、施設や文字が判読可能か、など)チェックは確実に行うこと。

(6) 提出データのフォルダ構成

調査表データ(PDF)は、該当する「箇所名」フォルダの下に格納して提出する。

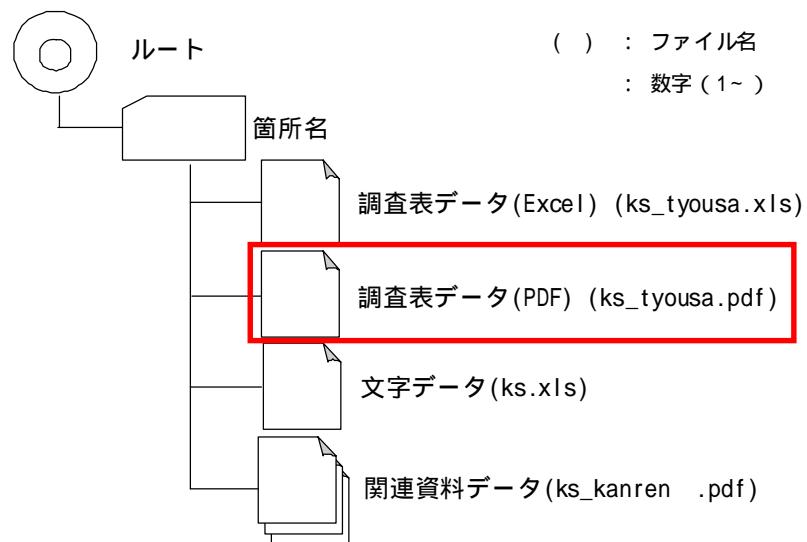


図 2- 4 調査表データ(PDF)の納品フォルダ

5 文字データの作成

文字データは、砂防課(又は発注者)より配布する文字データテンプレートにデータを入力する。

(1) 文字データの作成

作成した調査表の内容に基づき、砂防課より配布する文字データテンプレートに文字データを入力する。(図 2-5, 図 2-6, 図 2-7, 図 2-8 参照)

文字データテンプレートは以下のシートで構成される。

調査表情報	急傾斜地崩壊対策施設調査表の調査箇所(調査箇所名, 位置情報)に関する情報を入力する。 <u>調査表単位</u> で入力する。
施設情報	急傾斜地崩壊対策施設調査表に記載された施設情報(工種名, 施設諸元)に関する情報を入力する。 <u>施設単位</u> で入力する。

文字データ作成の留意事項は以下のとおりである。

文字データの入力規則(表 2-3, 表 2-4)に従うこと。

文字データテンプレート内のシートの追加や削除は行わない。

「シートの保護」は解除せずに, 入力可能なセルのみを編集する。

a) 調査表情報

表 2-3 調査表情報の入力規則

項目	記入形式	留意事項	記入例
調査箇所名	全角文字 半角英数字	調査箇所の住所を記入すること。	坪井栗尻地区
市町村ID	半角数字 (5桁)	5桁の市区町村コード 「第3章 参考資料『1 市区町村コード一覧』」を参考照すること。	34202
作成者	全角文字 半角英数字		建設コンサルタント株式会社
緯度(度)	半角数字	危険箇所の座標を記入する。	34
緯度(分)	半角数字	危険箇所の座標を記入する。	11
緯度(秒)	半角数字	危険箇所の座標を記入する。 小数第一位まで記入する。(小数第二位を四捨五入する。)	50.6
経度(度)	半角数字	危険箇所の座標を記入する。	132
経度(分)	半角数字	危険箇所の座標を記入する。	31
経度(秒)	半角数字	危険箇所の座標を記入する。 小数第一位まで記入する。(小数第二位を四捨五入する。)	45.9

調査箇所の座標値(緯度, 経度)の測位方法及び精度は、「第3章 参考資料『5 急傾斜地崩壊対策施設調査・座標値の測り方』」を参照

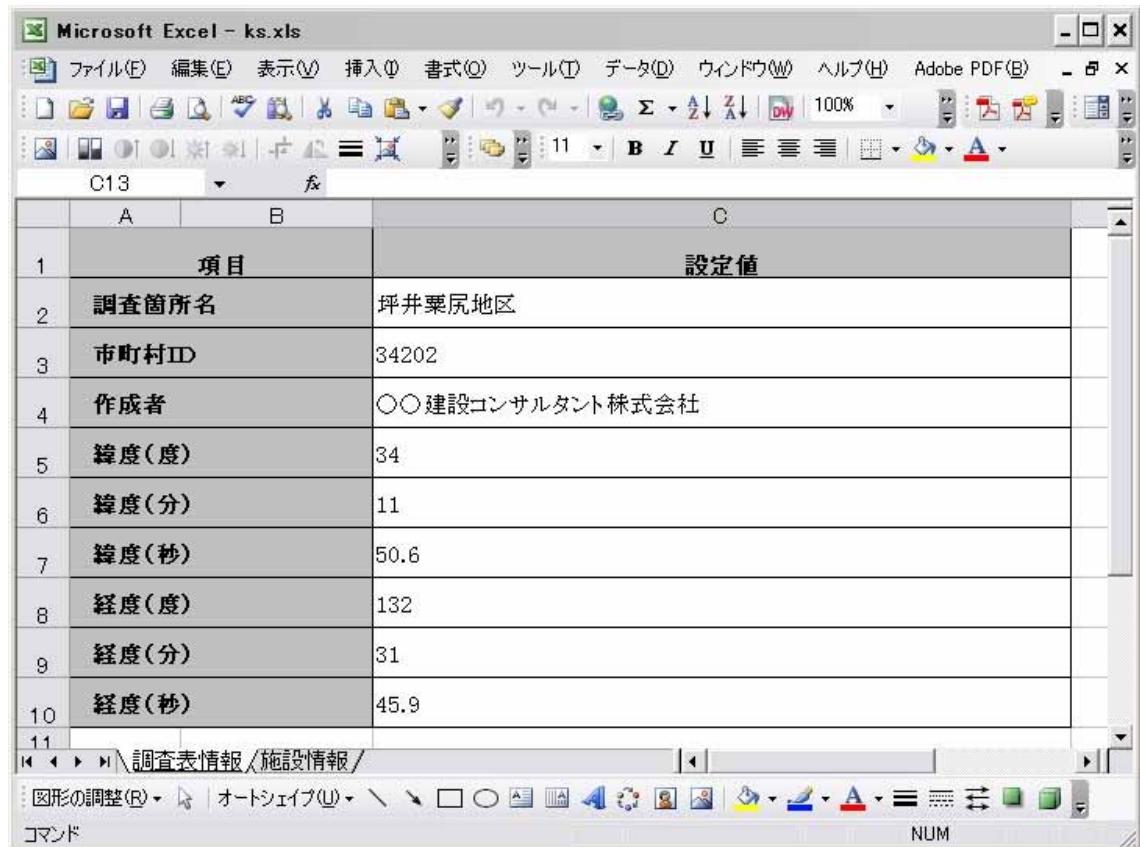


図 2- 5 テンプレート入力画面 (調査表情報)

b)施設情報

表 2- 4 施設情報の入力規則

分類	項目	記入形式	留意事項	記入例
危 險 箇 所	危険箇所番号	全角文字 半角英数字	箇所番号 1 文字目の分類記号(,)は全角文字とし, その他の文字は半角で記入する。	-1-1412
	箇所名	全角文字 半角英数字	調査表における「急傾斜地崩壊危険箇所」の箇所名を記入する。	坪井3丁目
	所在地	全角文字 半角英数字	調査表における「急傾斜地崩壊危険箇所」の所在地の欄の内容を記入する。	呉市音戸町坪井3丁目
	斜面区分コード	半角数字	危険箇所番号 2 文字目に記載された斜面区分番号を入力する。 (例: -「1」-951 の場合は「1」)	1
調 査 情 報	調査年	半角数字	“西暦”で入力する。	2008
	調査月	半角数字		11
	調査日	半角数字		15
危 險 区 域	地区名	全角日本語 半角英数字	調査表における「急傾斜地崩壊危険区域」の地区名を記入する。	坪井粟尻地区
	位置	全角日本語 半角英数字	調査表における「急傾斜地崩壊危険区域」の位置の欄の内容を記入する。	呉市音戸町坪井3丁目
	告示年	半角数字	“西暦”で入力する。	1994
	告示月	半角数字		3
	告示日	半角数字		28

分類	項目	記入形式	留意事項	記入例
危 険 区 域	告示種類コード	半角数字	次の規則に従い、数字を入力する。 ・ 内告 1 ・ 建告 2 ・ 国告 3 ・ 県告 4	4
	告示番号	半角数字		340
	標識・標柱	全角文字 半角英数字	「有」「無」以外の値も入力可能である。	有(標識)
	銘板	全角文字 半角英数字	「有」「無」以外の値も入力可能である。	無
	施設の有無	全角文字 半角英数字	「有」「無」以外の値も入力可能である。	有
	管理者	全角文字 半角英数字		広島県
施 設 情 報	工種名称	全角文字 半角英数字		待受擁壁工
	工法コード	半角数字	次の規則に従い、該当する工法の番号を入力する。 ・ 施設無(未対策) 1 ・ 植生工 2 ・ 吹付工 3 ・ コンクリート張工 4 ・ 法枠工 5 ・ 積み工 6 ・ 待受擁壁工 7 ・ アンカー工 8 (補助工法ではないもの) ・ 落石防護工 9 (待受擁壁や法枠、吹付と併用ではないもの) ・ その他 99	7
			<p>2種工法を併用している場合は主たる工法とする。 例) 枠内植生 法枠工 アンカー付法枠工 法枠工 落石防護柵付き擁壁 待受擁壁 </p>	
	材質	全角文字 半角英数字		コンクリート
	延長(m)	半角数字		40
	施設高(m)(下限)	半角数字		5
	施設高(m)(上限)	半角数字	値に範囲が無い場合は、入力不要。下限の方にのみ値を記入すること。	7.5
	斜面高(m)(下限)	半角数字		2.5
	斜面高(m)(上限)	半角数字	値に範囲が無い場合は、入力不要。下限の方にのみ値を記入すること。	7
	勾配(°)(下限)	半角数字		33
	勾配(°)(上限)	半角数字	値に範囲が無い場合は、入力不要。下限の方にのみ値を記入すること。	59
	変状の有無	全角文字 半角英数字	「有」「無」以外の値も入力可能である。	有
	変状の種別	全角文字 半角英数字		草木繁茂
	変状の程度	全角文字 半角英数字		わずか

分類	項目	記入形式	留意事項	記入例
施 設 情 報	県施工	全角文字 半角英数字	該当する場合に「」を入力する。 (「」以外の値も入力可能である。)	
	市施工	全角文字 半角英数字	該当する場合に「」を入力する。 (「」以外の値も入力可能である。)	
	根拠	全角文字 半角英数字		施設台帳
	施工年度(下限)	半角数字	“西暦”で入力すること。	2004
	施工年度(上限)	半角数字	“西暦”で入力すること。	2005
	治山	全角文字 半角英数字	「」以外の値も入力可能である。	, (市治山)
	その他	全角文字 半角英数字	「」以外の値も入力可能である。	道路施設
	不明	全角文字 半角英数字	「」以外の値も入力可能である。	
	施工状況	全角文字 半角英数字		概
	マーキング	全角文字 半角英数字		不可, 確認中, 緑
	備考	全角文字 半角英数字	欄外に記入されている情報があれば, 記載する。	

図2-6 テンプレート入力画面(施設情報 1/3)

図2-7 テンプレート入力画面(施設情報 2/3)

図2-8 テンプレート入力画面(施設情報 3/3)

(2) 文字データの検査

入力した調査表の文字データと調査表データ(Excel)を突合し、誤りがないことを確認する。

(3) ファイル命名規約

提出するファイルの命名規約は次の通りとする。

表 2- 5 文字データ・ファイル名の命名規約

	データ項目	ファイル形式	ファイル名	備考
	文字データ	Excel ファイル	ks.xls	

(4) 提出データのフォルダ構成

文字データファイルは、該当する「箇所名」フォルダに格納して提出する。

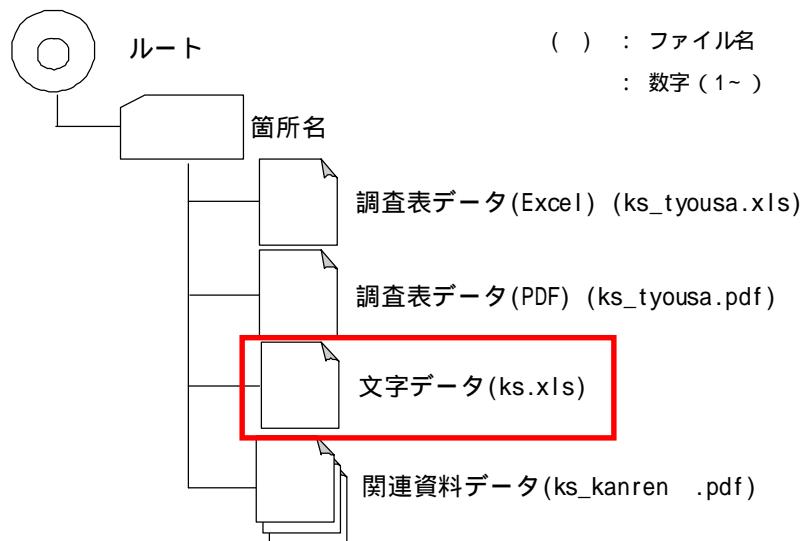


図 2- 9 文字データの納品フォルダ

6 関連資料等の PDF データ作成

調査で参照した既存の施設台帳等、関連資料をイメージスキャナ等で電子化し、PDF データを作成する。

(1) データの作成対象

PDF データの作成対象となるデータは次の通りである。

- ・関連資料(工事図面、既存の施設台帳等、調査時に参照した資料など)

(2) データの作成方法

収集・整理した関連資料をイメージスキャナ等で電子化して PDF に変換するか、ワープロ原稿を直接 PDF に変換して作成する。

(3) PDF 作成条件

スキャナの読み込み条件は特に設けないが、原図の内容が判読可能な精度(図 2-10 参照)を目安に PDF ファイルを作成すること。

(精度を落とさないための推奨設定を「第3章 参考資料『2 PDF 文書の作成について』」に示す。)

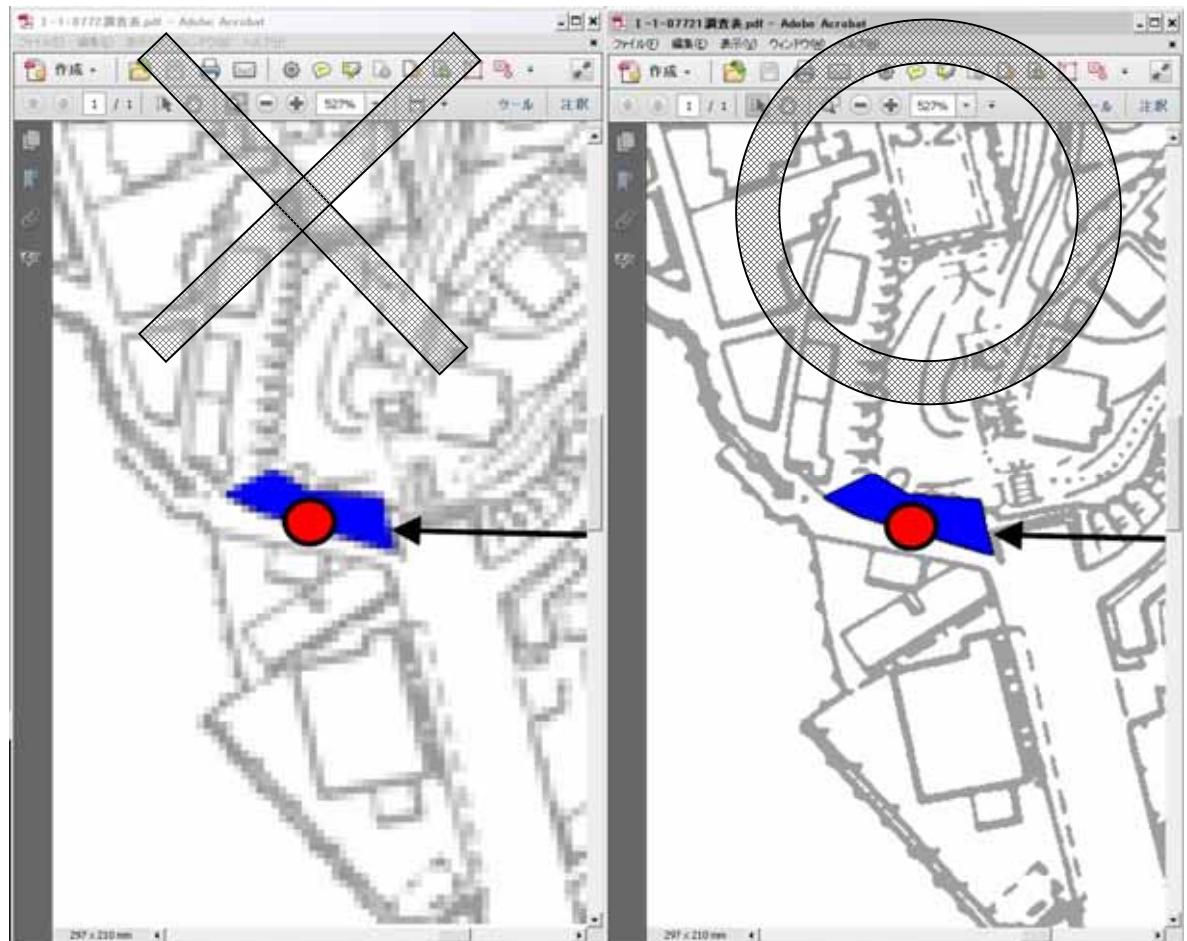


図 2- 10 PDFファイルの精度

(4) ファイル命名規約

PDF データのファイル名は、表 2- 6 のとおりとする。

表 2- 6 関連資料 PDF・ファイル名の命名規約

データ項目	ファイル形式	ファイル名	備考
関連資料 (施設台帳 等)	PDF ファイル	ks_kanren .pdf	「 」には、連番(1~)を入れる。

(5) PDF ファイルの検査

作成した関連資料 PDF データを検査し、誤りがないことを確認する。特に、PDF ファイルの品質(用紙の向き、施設や文字が判読可能か、など)チェックは確実に行うこと。

(6) 提出データのフォルダ構成

関連資料 PDF データは、該当する「箇所名」フォルダの下に格納して納品する。

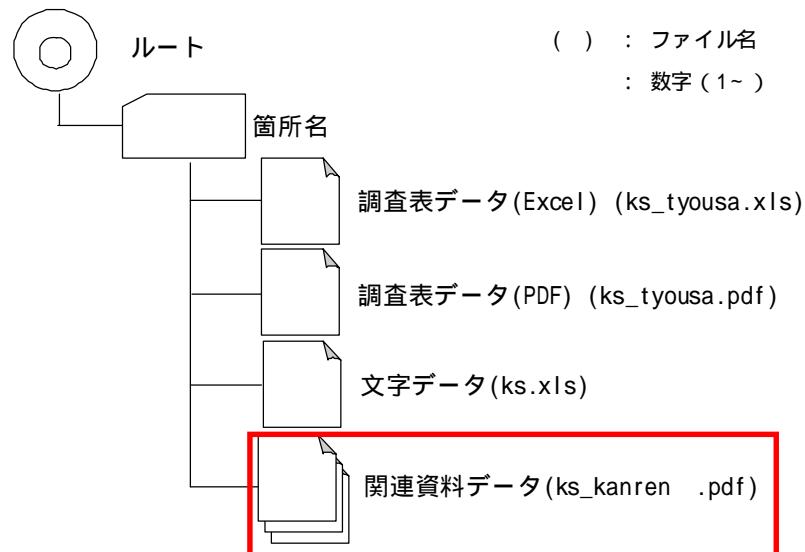


図 2- 11 関連資料データの納品フォルダ

第3章 參考資料

第3章 参考資料

1 市区町村コード一覧

市区町村コードは「(1)市区町村コード一覧」より取得して利用する。

ただし今後、市町村合併等により市区町村コードが変更される可能性があるため、データ作成時点での最新の市区町村コードを用いること。最新のコードの入手方法は「(2)最新の市区町村コードの入手方法」を参照すること。

(1) 市区町村コード一覧

表 3-1 市区町村コード一覧表(平成 24 年 2 月現在)

市区町村コード	市区町村名	市区町村コード	市区町村名
34101	広島市中区	34210	庄原市
34102	広島市東区	34211	大竹市
34103	広島市南区	34212	東広島市
34104	広島市西区	34213	廿日市市
34105	広島市安佐南区	34214	安芸高田市
34106	広島市安佐北区	34215	江田島市
34107	広島市安芸区	34302	安芸郡府中町
34108	広島市佐伯区	34304	安芸郡海田町
34202	吳市	34307	安芸郡熊野町
34203	竹原市	34309	安芸郡坂町
34204	三原市	34368	山県郡安芸太田町
34205	尾道市	34369	山県郡北広島町
34207	福山市	34431	豊田郡大崎上島町
34208	府中市	34462	世羅郡世羅町
34209	三次市	34545	神石郡神石高原町

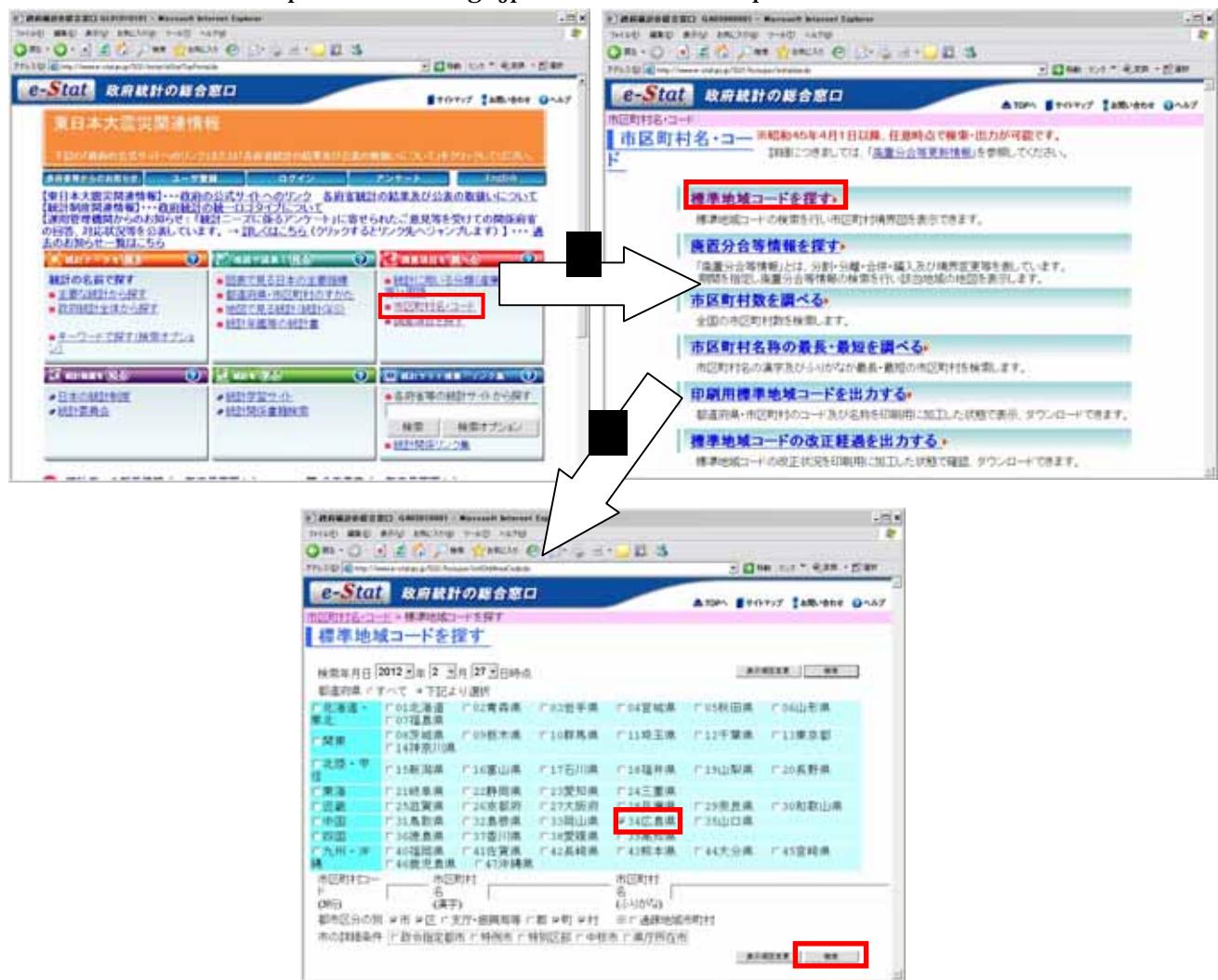
(2) 最新の市区町村コードの入手方法

市区町村コードは、独立行政法人統計センターのホームページで公開されている地方公共団体コードを利用する。コード入手方法は以下のとおりである(ただし、ホームページの構成等は平成24年2月時点のものである)。

a) 地方公共団体コードのホームページを開く

ブラウザを利用し、独立行政法人統計センターのホームページを開き、地方公共団体コードの画面を表示する。

URL : <http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/eStatTopPortal.do>



b) 広島県の画面を開く

広島県にチェックを入れ、「検索」ボタンをクリックすると、広島県の市区町村コード等が表示される。

The screenshot shows a Microsoft Internet Explorer window displaying the 'e-Stat' website. The title bar reads '政府統計の総合窓口 e-Stat'. The main content area is titled '標準地域コード一覧' (List of Standard Geographic Codes). A pink banner at the top says '市区町名・コード > 標準地域コードを探す > 標準地域コード一覧'. Below the banner, there's a search bar with placeholder text '検索' (Search) and a '検索' (Search) button. The results table has columns: 標準地域コード (Standard Geographic Code), 都道府県 (Prefecture), 政令市・都・支厅・振興局等 (Municipalities, Cities, Sub-governments, etc.), 政令市・都・支厅・振興局等 (小字・かな) (Sub-districts/Names), 市区町 (Municipality), 市区町村 (Municipality/Village), 施行年月日 (Implementation Date), and 条款分合等情報有無 (Information on amalgamation/merger). There are 31 items listed, with rows 34100 through 34108 highlighted in blue. The last row is a summary.

標準地域コード	都道府県	政令市・都・支厅・振興局等	政令市・都・支厅・振興局等 (小字・かな)	市区町	市区町村 (ら・り・か・な)	実施年月日	条款分合等情報有無
34100	広島県	広島市	ひろしまし			平成6年10月24日	○
34101	広島県	広島市	ひろしまし	中区	なかく	昭和55年4月1日	○
34102	広島県	広島市	ひろしまし	東区	ひがしく	昭和55年4月1日	○
34103	広島県	広島市	ひろしまし	南区	みなみく	昭和55年4月1日	○
34104	広島県	広島市	ひろしまし	西区	にしく	昭和55年4月1日	○
34105	広島県	広島市	ひろしまし	安佐南区	あさみなみく	昭和55年4月1日	○
34106	広島県	広島市	ひろしまし	安佐北区	あさきたく	昭和55年4月1日	○
34107	広島県	広島市	ひろしまし	安芸区	あきく	昭和55年4月1日	○
34108	広島県	広島市	ひろしまし	佐伯区	さえきく	平成17年4月25日	○
34202	広島県			呉市	くれし	平成17年3月20日	○
34203	広島県			竹原市	たけはらし		×
34204	広島県			三原市	みはらし	平成17年3月22日	○
34205	広島県			尾道市	おのみちし	平成18年1月10日	○
34206	広島県					平成18年3月1日	○

2 PDF 文書の作成について

(1)スキャナの読み込み条件

スキャナの読み込み条件は、白黒原稿は白黒 300dpi、カラー原稿はフルカラー 150dpi を推奨する。ただし、原図の条件等により文字等の判読が困難な場合は、適宜条件を変更してスキャニングを行うこと。

(2) PDF 作成条件

PDF の作成のための Acrobat Distiller の設定は以下設定を推奨する。

ただし、原図の条件等により以下の条件で作成した PDF ファイルの文字等の判読が困難な場合は、適宜条件を変更して PDF ファイルを作成すること。

一般

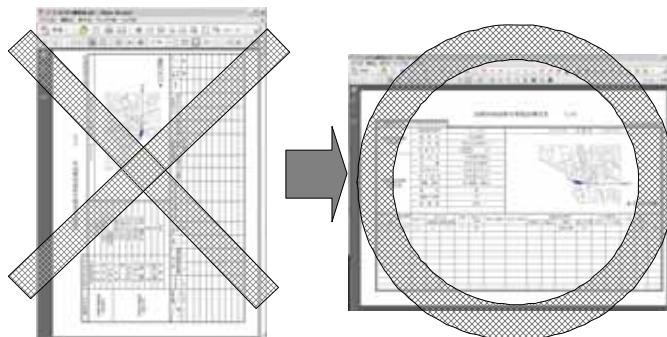
解像度	600dpi
サムネール	作成する
PDF の最適化	する

画像圧縮

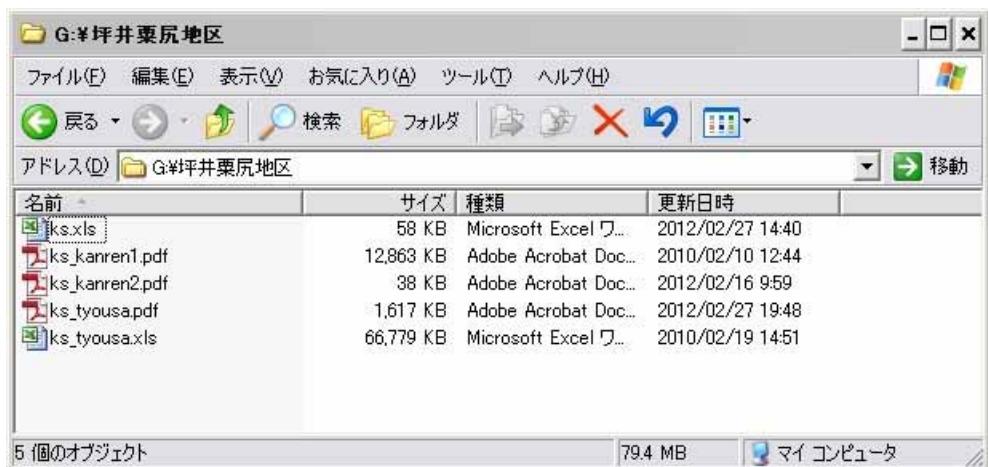
	カラー	グレー	白黒
リサンプル	ダウンサンプル(バイキューピック)		
解像度	150ppi	300dpi	
次の解像度を 超える場合	225ppi	450dpi	
圧縮	JPEG	CCITT Group 4	
画質	高	-	

(3) 用紙の向き

作成した PDF データを検査して、誤りがないことを確認する。特に、PDF ファイルの品質(用紙の向き、施設や文字が判読可能か、など)のチェックは確実に行うこと。



3 電子データの作成例



4 提出データサンプル

文字データ(ks.xls)

・文字データ(調査表情報)

The screenshot shows a Microsoft Excel window titled "Microsoft Excel - ks.xls". The spreadsheet contains data about a survey location, organized into two columns: "項目" (Item) and "設定値" (Setting Value). The data is as follows:

	A	日	C
1	項目	設定値	
2	調査箇所名	坪井栗尻地区	
3	市町村ID	34202	
4	作成者	〇〇建設コンサルタント株式会社	
5	緯度(度)	34	
6	緯度(分)	11	
7	緯度(秒)	50.6	
8	経度(度)	132	
9	経度(分)	31	
10	経度(秒)	45.9	
11			

・文字データ(施設情報 1/3)

・文字データ(施設情報 2/3)

・文字データ(施設情報 3/3)

調査表

・調査表データ(Excel) (ks_tyousa.xls)

急傾斜地崩壊対策施設調査表 (1 / 5)						
箇所番号	1-1-1411	斜面区分	自然	地図名	海岸段区	所在地
実験				実験		兵庫音戸海岸
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						
26						
27						
28						
29						
30						
31						
32						
33						
34						

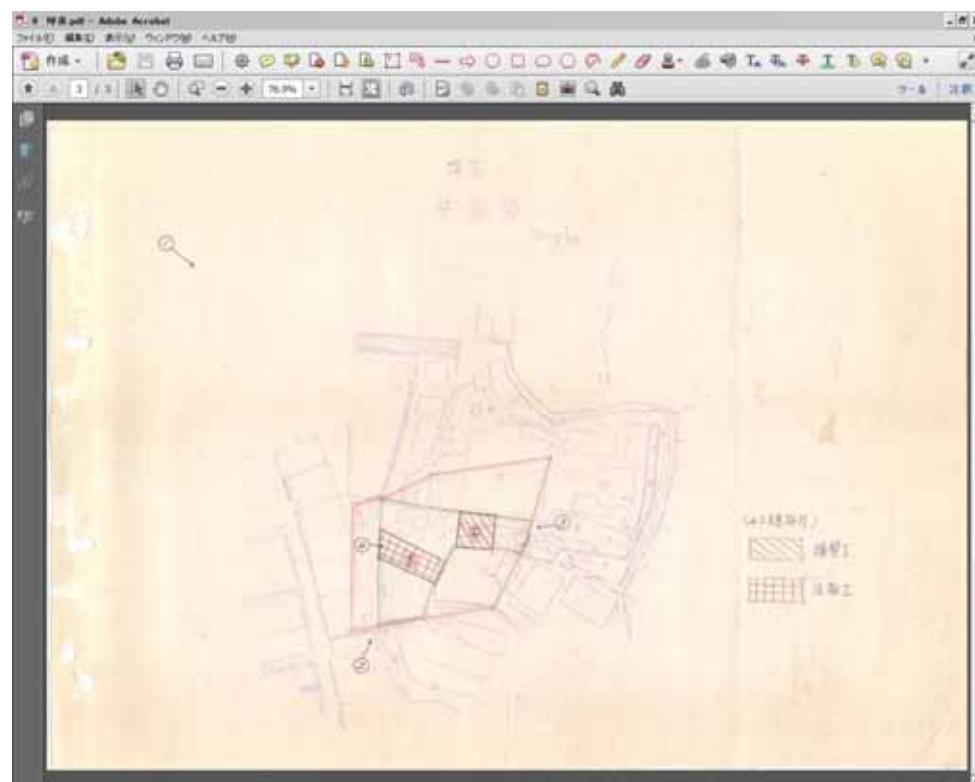
・調査表データ(PDF) (ks_tyousa.pdf)



関連資料

(ks_kanren .pdf [ファイルが複数になる場合は「」に 1 を開始番号とした連番を記入])

・施設台帳



5 急傾斜地崩壊対策施設調査・座標値の測り方

文字データに入力する施設位置・座標値の測位に関する留意事項は以下のとおりである。

施設の中心付近の座標値とする。

施設が複数存在する場合、それらの施設を包含する範囲の中心付近の座標を計測する。

文字データで入力する座標値は、システムで施設位置を表示させることを目的とするものであるため、既存の GIS(電子地図) 等による測位で可とする。

6 急傾斜地崩壊対策施設調査 電子データチェックシート

作成日： 年 月 日

急傾斜地崩壊対策施設調査 電子データチェックシート

区域名：

種別：急傾斜

担当地域事務所名： 建設事務所 支所

担当コンサルタント名：

担当者名：

(作成要領：急傾斜地崩壊対策施設調査 電子データ作成要領 第1.0版)

チェック項目	適	否	備考
1. 全般			
(1) 提出媒体に作成要領に示されたラベルを貼付しているか。			
(2) 電子データのフォルダ構成は、作成要領に準拠しているか。			
(3) 電子データのフォルダ名は、箇所名となっているか			
(4) フォルダに Excel 形式の調査表データが保存されているか。			
(5) フォルダに PDF 形式の調査表データが保存されているか。			
(6) フォルダに Excel 形式の文字データが保存されているか。			
2. 文字データ			
(1) ファイル名は、作成要領に準拠しているか。			
(2) 「調査表情報」シートが存在するか。			
(3) 「施設情報」シートが存在するか。			
(4) 「調査表情報」の各項目は、作成要領の入力規則に従って入力されているか。			
(5) 「施設情報」の各項目は、作成要領の入力規則に従って入力されているか。			
(6) 「施設情報」の行数は、施設数と一致しているか。			不要な行がないことを確認する。
3. PDF データ			
(1) ファイル名は、作成要領に準拠しているか。			
(2) 原図の内容が判読可能か。			